

第一問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

人間はふつうにはエゴの満足のための利得や名誉と、他者との調和のための道徳を気にして生きているものである。その二つのものを中心としてわれわれの生活がいと生まれ、その中でわれわれは、あるものを好んだり、あるものを嫌ったり、ある人間を好んだり、ある人間を嫌ったりすることによって、自分が生きているという感じを満足させようとする。

ふつうの人は、実利と道徳が人生だと思っている。しかしこの二つは、生活を動かす力であつて、生活そのものではない。自分の生きていることの実体を、このようなふつうの生活者は見落しがちのものである。 ア そういう人間のために、画家は、物の形や、色の美しさや、面白さを描き出すという方法で、ほんとうはこういうふう人間にはまわりが見えるものである、ということ悟らせる。画家はわれわれを導き、色と形を通して人生の味を理解させるようにする。小説家や戯曲家は、人間と人間の関係や、人間と道徳の関係や、人間が生きていることそれ自体において感ずる生きがいというものを、言葉の芸術によって分からせる。ふつうの人が多少は感じていながらも、はつきりと感じられないところの、生きていることの中身がそこに表現される。そういうことを、音楽家は音においてしているわけである。

他の諸科学は、生きていることの便宜、あるいは生きていることの秩序、というようなものを研究する。それらのは、人間の役に立っているもの、すなわち人生にたいする手段である。生きていることの中身は、思想と芸術がそれを把握し、思想は抽象的な本質を論理的に説明することで、また芸術は具体化の方法によって表現して、それを分らせるものである。

芸術はそれをどういう操作によってするか、というのと、一種の A という操作によってする。その A というのは、たとえば、林檎が一つあるとする。その林檎なるものは、いろいろな条件やいろいろな性質において存在している。それは一つには、貨幣価値を持っている商品であり、したがって商業行為の目的物である。また一つには、^イそれは栄養を持っている物質であり、また一つには、^ウそれは味覚を満足させる享樂的な品である。また一つには、^エそれは色と形の美しさにおいて、人を楽しませるものである。その場合、画家がもしそれを描けば、^カそれは林檎の持っている色と形の面白さだけを純粹に抜きだして、^キそれを紙か布の上に移して描きだすことになる。そうすると、その紙か布の上に描きだされた林檎は、林檎として元來持っていた他の要素、B 食料としての価値、あるいは商品としての価値などをみな失う。そうして色と形の美しさの部分だけが、紙か布の上に A されたことになる。その時に、われわれが色と形において林檎に見出していた喜びが、純粹の結晶状態のものとしてそこに再現される。作者という統一のある人格を通して、その色と形の面白い点が抜きだされる時に、そのものは、林檎であり、同時に作者の思想の表現であり、その思想を通しての社会や生命の反映となる。人間の生命感と美との融和統一である。

^ク文学についても同じように考えられる。一つの恋愛事件があったとすると、その恋愛事件について作者が見出した思想、B、生きることについての感じ、というものがその事件から抜き出される。そうすると作者は、自分がその事件にあるいろいろな諸関係、たとえば着物とか表情とか金銭問題とか第三者との関係などの中から、その恋愛の本質になる部分だけを抜きだし、それをもっと純粹なものにして現わすに都合のいい、別な物語りを作つてその中にはめ込む。そうするとその時は、その事件は、初めあつた事件と質的には似ているけれども、違つた形の物語りとして文学作品になる。

そのために、その感銘を受けたところだけが純粹に結晶するような、べつな物語りの構造が必要なのである。その作られた、べつな物語りの中に、体験の感銘が移されると、その時はじめて、その恋愛体験の中の純粹な部分が生かされる。この A ということがなければ、芸術作品は成りたたない。この場合、そのべつな物語りは、フィクションと言われるほど、まったくの作りもののものであれば、また事実を多少作り変えるだけのこともある。フィクションにするのは、作者の意識においては、モデル問題を避けるためのこともあるが、^ケ その同じ作為が芸の働きの方から言う A によつて不必要なものを捨て、その事件の純粹さを結晶させることになる。その元来の恋愛事件の中で、もつとも人を感動させるところは、他の邪魔になる要素と混り合っているから、その事件をそつくり全部書いては、良い作品にならない。それはちょうど、林檎を色彩写真のようにそつくりそのまま描いてはどこにその林檎の色や形の面白さがあるのか分らないけれども、画家が、形の面白いところと色の面白いところだけを写生すると、そこにはじめて林檎の美が生まれる。それと同様である。林檎の本当に美しいところだけを画布の上に、絵具によつて A せるのである。

(伊藤整『改訂 文学入門』より一部改変)

問1 傍線ア「そういう人間」とはどのような人間か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 画家
- ② 音楽家
- ③ 小説家
- ④ 戯曲家
- ⑤ ふつうの人

問2 空欄

A

にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 反動
- ② 完成
- ③ 様式美
- ④ 移転
- ⑤ 中心化

問3 空欄

B

に入る同じ言葉として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① しかし
- ② または
- ③ そして
- ④ すなわち
- ⑤ および

問4 傍線イ、カ「それ」の指示するものの中で他と異なるものはどれか、その異なるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① イ
- ② ウ
- ③ エ
- ④ オ
- ⑤ カ

問5 傍線キ「それ」は何を指すか、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 林檎の味
- ② 林檎の色と形の面白さ
- ③ 林檎の貨幣価値
- ④ 画家の道徳観
- ⑤ 画家の抽象的な思索

問6 傍線ク「文学についても同じように考えられる」とあるが、作者が例示した文学において「林檎の美」にあたるものはなにか、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 恋愛事件
- ② 生きていることの秩序
- ③ 作者が見出した思想
- ④ 純化した恋愛の本質
- ⑤ 着物、表情、金銭関係、第三者との関係など

問7 傍線ケ「その同じ作為」とは何か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 実際の事件をフィクション化する行為
- ② 恋愛体験を写実する行為
- ③ モデル問題を回避する行為
- ④ ドキュメンタリーを作る行為
- ⑤ 感銘を受けた部分を叙述する行為

問8 筆者にとって芸術家とはどのような人々か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 抽象的な本質を論理的に説明できる人
- ② 絵画や文章の、すぐれた写実技術をもった人
- ③ 芸術家とはどうあるべきかを常時考えられる人
- ④ 生きていることの秩序を解明して人々を教育できる人
- ⑤ ふつうの人間にはしかとは看取できない美や感銘を捉えられる人

第二問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

日本史を考える上で、きわめて重要だけれどもよくわからないことがいくつもあります。その最たるもののひとつが「女性」でしょう。

「日本は昔から男尊女卑で、女性の地位は非常に低かった」と思われていた時期もありましたが、研究が進むとともに、近世以前の日本社会では女性の地位はけっして低くなかったことがわかってきました。① 歴史に名を残している人物でも、持統天皇、北条政子、日野富子など強い権力を保持していた女性もいますし、財産の相続などをみても、女性の権利は相当認められていました。なんといつても子どもを産むことができるのは女性だけです。【Ⅰ】

とはいえ、政治権力との関係において、女性がいわば「制度」の外の存在であったことも事実です。それゆえに、女性が歴史上どのような役割を果たしてきたかがうかがえる史料も多くはありません。さらには、朝廷、貴族、武士などの時の権力者グループではない、いわゆる一般の女性のあり方がどうだったかを語るのは非常に難しい。【Ⅱ】
 ここでは、家族のあり方、土地の相続、さらには文学作品などを参照しながら、女性が果たした役割の⑦ ヘンセンを考えてみたいと思います。

まずは視野を大きく広げ、人類史的な視点から、日本の家族システムにおける女性のあり方を探ってみましょう。

そこで参考になるのが、世界的な家族人類学者、歴史学者である エマニュエル・トッドの家族類型論②です。

私はトッドさんと日本史における家族について対談したことがあります。住民台帳などの地道な調査をもとに、大胆かつ説得力に富んだ仮説を提示する力に① アットウされました。トッドさんの壮大な家族類型論のなかでも、とりわ

け重要なのが、それまで最も近代的に進んだ家族システムだと思われてきた「核家族」が、実は「最も原始的」な形態であり、大家族を形成する「共同体家族」こそが最も新しく登場したものだ、という発見でした。トッドさんの理論によれば、人類史にあらわれるのは「A ↓ B ↓ C」の順になります。これはそれまでの家族史の定説をひっくり返すものでした。

これを地理的にみると、もっと面白いことがわかります。

D

がユーラシア大陸の中心部、すなわち中国、ロシア、中東などに広がり、その周縁である日本、朝鮮、ドイツ、スウェーデンなどでは

E

となる。そして、さらに周辺部であるイギリス、アメリカは

F

になるのです。

これは柳田国男が『かぎゅう蝸牛考』などで提唱した方言圏論とも重なります。カタツムリの呼び方を地域ごとに調べて、近畿地方では「デムシ」、中部・中国地方では「マイマイ」、関東や四国では「カタツムリ」、東北や九州では「ツブリ」、そして東北の北部や九州の西南では「ナメクジ」となり、近畿を中心として同心円状に変わっていくこと、そして中央が最も新しく、周縁にいくほど古い呼び名が残っていることを明らかにしたのです。

さて、この家族類型論を東アジアにあてはめてみるとどうなるでしょうか。

はじめに登場するのは「絶対核家族」です。このシステムでは子どもは早くから親元を離れ、結婚すると独立します。

親子の関係は深くなく、相続にも決まったルールがない。だからイギリスなどでは親の意思である遺言によつて遺産相続が決まることが多い。遺産を子どもたちの中で平等に分けるのが「平等主義核家族」です。【Ⅲ】

そこから男子が一人、相続人となり、親と同居してすべてを独占する「直系家族」が登場します。東アジアで最も歴史の古い中国でいうと、春秋戦国時代以降でしょうか。トッドさんによれば、この父系直系家族の倫理を体系化したも

のが儒教です。【IV】

それがやがて、ベトナム、朝鮮、日本といった周辺地域に広がっていく。一方、中国では、父親の下にその男の子たちの家族がみな同居する「共同体家族」に移っていく。

この議論は非常に優れていて、説得力があると思います。【V】ももとは日本の家族形態は双系的、つまり父方にも母方にも属していたのが、やがて、今もそうであるように、父系の直系家族が支配的になっていく。まずはこれを基本的な構図として押さえておきたい思います。

(本郷和人『日本史のツボ』より一部改変)

問1 波線部㉠「ヘンセン」の「セン」と同じ漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 適任者を推センする
- ② セン挙で委員長を決める
- ③ 独立をセン言する
- ④ 美しいセン律を奏でる
- ⑤ 地方にセン都する

問2 波線部①「アットウ」の「トウ」と同じ漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 三浦半島をトウ破する
- ② 価格が高トウする
- ③ トウ一基準を設ける
- ④ 見トウが外れる
- ⑤ 取引先がトウ産する

問3 傍線部①「歴史に名を残している人物」とあるが、女性文学者として名を残している人物とその作品の組合せと

して最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 小野小町——『土佐日記』
- ② 菅原孝標女——『更級日記』
- ③ 和泉式部——『栄花物語』
- ④ 紫式部——『枕草子』
- ⑤ 清少納言——『狭衣物語』

問4 空欄

番号をマークしなさい。

A

B

C

に入る組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その

① A 直系家族 B 共同体家族 C 大家族

② A 核家族 B 共同体家族 C 大家族

③ A 共同体家族 B 大家族 C 核家族

④ A 核家族 B 直系家族 C 共同体家族

⑤ A 大家族 B 直系家族 C 共同体家族

問5 空欄

番号をマークしなさい。

D

E

F

に入る組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その

① D 核家族 E 共同体家族 F 大家族

② D 核家族 E 直系家族 F 共同体家族

③ D 共同体家族 E 大家族 F 核家族

④ D 直系家族 E 共同体家族 F 大家族

⑤ D 共同体家族 E 直系家族 F 核家族

問6 傍線部②「エマニュエル・トッドの家族類型論」として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号

をマークしなさい。

- ① 日本の家族形態は昔から双系的で、近世では男性が女性に従属するものであった。
- ② 絶対核家族では、親の遺産を子どもたちの間で平等に分けることが多い。
- ③ 最も古い家族システムは核家族であり、地理的には周辺部に定着している。
- ④ 直系家族では男性が重視され、相続は父方・母方の双方から受けることができた。
- ⑤ 共同体家族は大家族を形成するものであるため、結婚した子どもから独立していった。

問7 本文には、次の一文が脱落している。文中の【I】～【V】のうちで、どこに挿入するのが最もふさわしいか、

次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

脱落文【一族の繁栄・維持や姻戚関係を築くにも、女性の存在、影響力は大きなものがありました。】

- ① 【I】
- ② 【II】
- ③ 【III】
- ④ 【IV】
- ⑤ 【V】

問8

本文の内容として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 日本は以前から女性の地位が低いと思われていたが、ある程度の自由な婚姻も認められていた。
- ② 柳田国男の方言圏論によれば、デテムシよりもカタツムリの方が古い呼び名となる。
- ③ トッドによれば、中国の共同体家族よりもイギリスの核家族の方が新しい家族システムとなる。
- ④ 近世の日本では、女性は常に家族制度の中心におり、時には政治権力を握る者も出ていた。
- ⑤ 日本の家族形態は、もともと母―男子で相続していたものが、父―男子による相続に替わった。

第三問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

ある時、わたしは中年の女性の講演を聞きに行った。女性と職業といったような標題だったと記憶する。かの女はある大銀行の支店長に女性として初めてなったことで著名な人らしかった。そこまで勤め上げるには女性としてどんな矛盾に悩み、どう切り抜けて来たのか、そんな告白をわたしは期待していたらしい。聞き手は主に就職を目指す若い大学生だったようだ。

話が始まって五分も経たぬうちに、わたしはいたたまれなくなった。話の内容よりむしろ声を聞くのに耐えられなかったのである。

かの女の物腰口調は、若い人たちに人間として話しかけるといふよりは、新入社員に心得をさとす人事課長を思わせた。胸を張り、口許をゆるめてにこやかさを作ってはいるが、目は忙しく動いている。木質の棒を思わせる単調でゆるみのない声は、語句を明確に際立たせるために語尾を拡大し撥ね上げるように強調する。この声は営業場面で利害の計算を明確にして相手を説得するには役立つかも知れない。が、いかにも硬くあたたかさが乏しい。話の内容はどうやら、職場で出世する妨げとなる、女性に特有の弱点を指摘する方向に向いているらしい。男性に負けぬためにはなにを予測し警戒しなくてはならないか。自分はそれを克服し男性同僚にセリ勝つためにどれほど油断なく上司に気を配ったか……話はこの範囲に尽きるようであった。

銀行の営業の仕事と役職とがかの女に課した

X

が、すでにかの女そのものになっている。かの女の声は

X

の仮面、すなわちペルソナそのものになっていた。人間らしいまなましい声を期待していたわたしが甘か

つたのだろう。古くから「肉づきの面」ということばがある。古い学校教員にはしばしば、家庭でも知人関係でも役職教員の物腰物言い以外でのつきあいはできなくなってしまった人があつたものだが。

ある大学での表現の実習で、一人の少女が一くさりのせりふを読んだ。どうも
B のでやり直して貰った。かの女はきれいなかわいい声できちんと読み上げる。一字一句まぎれなく聞き分けることはできるし、情緒のメリハリさえそれらしくつけている。だが、相手になにを伝えたいのか、どうしてほしいのかが聞こえて来ない。かの女はわたしの意見をにこにこして聞き、すぐやり直す。だがかの女が意気こんでなんべんやり直しても、わたしの耳には変わりがない。

「わたしが聞きたいのは」とわたしは言った。「あなたという一人の女の人の声なのに、なんべんやり直してもわたしには『かわいらしい女の子』の作り声しか聞えて来ない。 C あなたはいつたいどこにいるんだろう」

二十歳の少女にはきつ過ぎる言い方だったかも知れない。かの女は目を見張ったまま棒立ちになっていたが、わっと泣き出した。

かの女は父親の秘蔵っ子だそうで、一所懸命その期待に応えようと振舞い、甘えもして来たと言う。「そんなにわたしの話し方ヘンですか?」「かわいい子」を演じてみせることがいつのまにかかの女の役回りとして固定していたということなのだろうか。わたしはイプセンの「人形の家」の女主人公ノラを思い出した。かわいいお人形さんとして父から夫へと手渡されて行った美少女を。

わたしは配役を変え、次の回の稽古ではかの女に男子青年の役を割り振ってみた。大きな声で、怒鳴ってもいい、ま

つすぐに相手にことばをぶつつける、とわたしはくり返した。額に汗をかき始めた頃、突然かの女の声が変わった。やや低い、太く柔かい声が、ずしんと相手のからだを打って、相手は思わず、ええつと声をあげた。稽古の後でかの女は「今の声は気持の動きがそのまま声に出るから好き、今までの声は、自分の声じゃなかった」と言った。

家庭ばかりではない、学校にもカワイコちゃん役美少女役の女の子がおり、逆に、女子高では男役の少女がいる様子だ。その身構えやしなの作り方は D 一目見ればわかる。

その一人はレッスンの後で、自分の声の変化に驚いてこう書いた。

——こんな汚い声が私の声？ と思うのと同時に、何というかとても心が落ちついた。自分が地面に立って、今ここに、居るという気がした。(中略) きょう自分で聞いた自分の声はわたしによびかけているようだった。

ああ、これが自分の声だ、と納得した時、自分が現れる。これが自分だ、と発見するということは、自分をそう見ている自分もそこにしかと立っているということ、ふだんの自分が仮構のものだった、固まった X を演じていたのだと、霧がはれたように見える。世界が変わってしまう。目が開く。比喻ではない。実際に相手の顔が、周りの世界の隅々が、くつきりと、初めてのように見えるのだ。

深ぶかと息をすると、自分の存在感が変わる。世界のまん中に自分が立っていると気づくと言ってもいいか。自分がこの世に落ち着くのだ。 ^E 自分の声に出会うということは、自分が自分であることの原点である。

(中略)

ヨーロッパから初めて日本に来て、空港のエスカレーターなどの女声のアナウンスを聞いたとたん拒絶反応を起こす

人はかなりいるらしい。

ある人は、日本の若い女性はどこで会っても、口許をゆるめ笑顔を作り、ていねいに受け答えするけれども、一樣に細く高い声、一定のイントネーションで、来訪者を案内する場合でも、物をベルトコンベアにのせるためのボタン操作をしているような扱いを言う。あれは仕込まれた演技なのか、あまりに人工的で不気味だ、F サイボーグだ、なぜこうなのだ、と言う。

アニメーション映画作家の宮崎駿氏が新作のヒロインのためのボイス・ハンティングをしたが、だれもかれも一樣に甘ったるい声でどうしようもなかった、と語ったと読んだことがある。

これも、かなり日常化し「肉づきの面」化したペルソナの声の例だろう。そのXが表層的な儀礼やら情報の伝達に限られているだけに、一層G化しているとも言える。

現代は、人のなまみの声が見失われ、いや聞き失われた時代だと言ってよい。声||ことばとは、人と人がじかにふれあうこと、という感覚が消えてしまっている。その代表例がマイクロフォンとスピーカーの使用の鈍感さと言えるだろう。小さな幼稚園の庭で、つい目の前にいる子どもに注意するのに、マイクでガンガン怒鳴っている保母さんを見て呆れたことがあったが、せいぜい二十人や三十人の会合でさえ平気でマイクを使うのも珍しくなくなった。

スピーカーからの音は、話し手からじかに聞き手にふれてくる声ではない。会場全体に無方向に響く。方向感がないということは話す主体の位置がないということ、つまり聞き手とのからだだからだが向かいあう関係が成り立たないということ、ことばが声として肌にあふれ、耳を刺し、のどに詰まり、胆きもを冷やすといった人間同士の働きは成り立ちようがない。ただ、話の、文章としての内容の伝達機能だけが働いている現象である。話し手は自分の声が聞き手に届い

てゆく実感を持ってない。ただ自分の声のエコーの内に閉じ込められてしまっている。だが
なつて満足している有様は、まことに自閉的というか、ナルシスティックと言う他はない風景だ。それは、人と人が
切り離され、^I 人の声が消費社会において規格化され商品化されてゆく筋道を見せてくれているのであるのだろう。

H

それに慣れっこに

(竹内敏晴『日本語のレッスン』より一部改変)

問1

傍線部A「わたしは期待していたらしい。」について、ここでは「ある中年の女性の講演」を筆者が実際に聞きに行った時のエピソードが書かれているにもかかわらず、「期待していたらしい」という書き方をしているのはなぜか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 実際には、「わたし」が聞きに行ったのではなく、第三者から聞いたことをもとに書いているので、断定的には書けなかった。
- ② 聞きに行ったのが相当昔のことで、その時の様子や気持ちをはっきり覚えていないので、断定的には書けなかった。
- ③ まるで第三者がその講演を聞きに行ったように感じさせることができる効果をねらって、わざと断定的に書けなかった。
- ④ その講演は、「わたし」が期待していたものとは内容的に異なっていたために、印象が曖昧になり断定的に書くことができなかった。
- ⑤ この女性の講演を聞く前には、特に何を期待しているか意識していなかったが、講演者の声を聞くのに耐えられず、あらためて自分が何を期待していたのが自覚できた。

問2 波線部「セ」を漢字にするとどれがふさわしいか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 切
- ② 勢
- ③ 競
- ④ 攻
- ⑤ 施

問3 空欄

X

に入る語句として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 性格
- ② 場面
- ③ 相手
- ④ 期待
- ⑤ 役割

問4 空欄

B

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 言うに言えない
- ② 腑に落ちない
- ③ 如才ない
- ④ 引くに引けない
- ⑤ 落ちつかない

問5

傍線部C「あなたはいつたどこにいるんだろう」とはどういうことか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① あなたの声は聞こえるけれど、どこからその声が出ているのかわかりにくく、あなたの居場所がわかりづらいということ
- ② あなたがわたしの意見をにこにこして聞き、あまりにもきれいでかわいい声を出すので、まぶしすぎてあなたをまともに見ることができないということ
- ③ あなたがわたしになにを伝えたいのか、どうしてほしいのかがうまく言葉のメリハリに表現されていないために、それが伝わってこないということ
- ④ あなたは、一所懸命に父親の期待に応えようと振る舞い、「かわいい子」を演じてみせることが役回りとして固定していたことがよくわかるということ
- ⑤ あなたが発している声は、本当の自分を表した声になっておらず、作り物の声にしか聞こえて来ないということ

問6 空欄

D	・	F	・	H
---	---	---	---	---

び、その番号をマークしなさい。

に入る語句の組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| ① | D—ほとんど | F—まるで | H—もはや |
| ② | D—ほとんど | F—もはや | H—まるで |
| ③ | D—まるで | F—ほとんど | H—もはや |
| ④ | D—まるで | F—もはや | H—ほとんど |
| ⑤ | D—もはや | F—ほとんど | H—まるで |

問7 傍線部E「自分の声に出会うということは、自分が自分であることの原点である」とはどういうことか。その説

明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 職場で出世する妨げとなる女性がもつ弱点を克服して、男性に負けぬ地位につくこと
- ② 大切に育ててくれた親の期待に応えようと振る舞い、甘えることで自分らしさを出すこと
- ③ 家庭や学校など普段の自分の声は周りにどう思われるかを気にして身構えて作った物であることに気づくこと

- ④ 自分の気持の動きが声に出ることを自覚でき、自分が地に足をつけてそこにいると感ずること
- ⑤ 小さな幼稚園の庭で、目の前にいる子どもに注意するのにマイクを使うのが当たり前だと思えること

問8

空欄

G

に入る語句として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 個別
- ② 効率
- ③ 無機質
- ④ 抽象
- ⑤ 無差別

問9 傍線部Ⅰ「人の声が消費社会において規格化され商品化されてゆく」とはどういうことか。その説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 人の声が一様に細く高く、しかも一定のイントネーションで機械を相手にするような状態になること
- ② 人の声が人と人がじかに触れ合うという感覚を失い、方向感をなくしていること
- ③ 人の声が日常的に表層的な儀礼やら情報の伝達に限定されて用いられること
- ④ 人の声が話し手からじかに聞き手に届くのではなく、言葉による内容の伝達機能だけが働いていること
- ⑤ 人の声が相手に届く実感を持ってなくても自分の声をエコーで確認できることで満足していること